

西郷村の人口及世帯数
(50. 9. 1 現在)

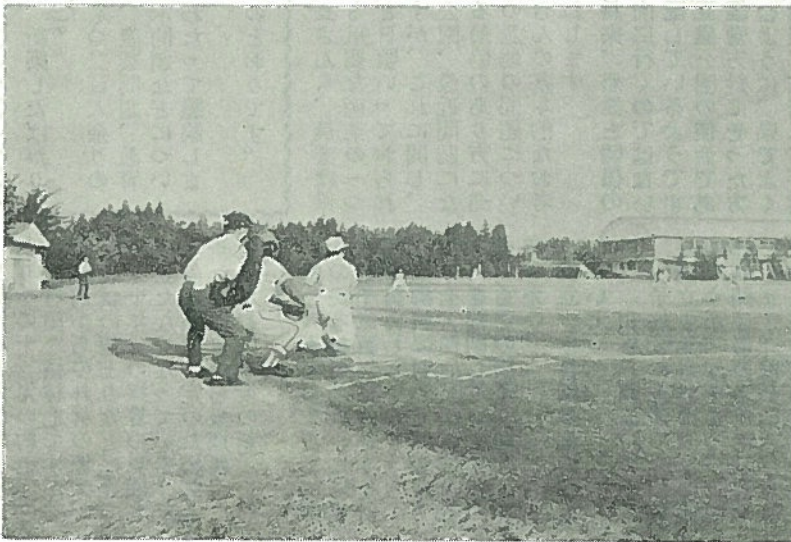
世帯数	2,802
人口	11,207
男	女
5,564	5,643



発行日 昭和50年9月16日発行

発行所
西郷村役場
(電話 02482)
白河(5)2121(代表)
編集発行
企画開発課

印刷所
ワタベ印刷所



スポーツの秋
たけなわ!!

上……熱戦中の池田杯争奪野球大会

右……出番を待つ園児たち

小田倉小学校の運動会を初めとして、各校の運動会、村民登山大会、池田杯野球大会と盛沢山の村のスポーツ行事が続々行なわれます。

村民の皆さんも出来るだけ多くの行事に参加して、来たるべき冬に對し体力を養っておいてはいかががでしょうか。



活発な意見の交換行わる！

— 木村県知事を迎え県政懇談会 —

先月八月四日「県政懇談会」が、新築したばかりの農民研修センターで開かれました。

この懇談会には、県政に関心をもつ二百人余りの村民が参加し、なごやかな中にも、産業問題、教育問題、福祉及び生活環境問題、土木問題などについて佐藤村長を司会者に、二時間にわたって懇談しました。

懇談会の質問内容及び答弁は次のとおりです。

△傾斜度の大きい農地のほ場整備事業の補助率引上について▽

真船 加須我英一

西郷村の農耕地は傾斜のある土地が多く、ほ場整備事業の場合に平坦地に比べ工事費が高み、その分だけ受益者の負担が多くなりま

す。現在の補助制度は土地の状況に関係なく一律の補助なので、傾斜地については特別な補助率の引上げをお願いしたい。

【答】 木村知事

現在三十aに対して県の補助は十五％ですが、急傾斜地にあつては二十aに対して二十％の補助を行ない、受益者の負担の軽減を計りたいと思います。

△農地の問題について▽

川谷 原田和信

私は報徳組合に属していますが、木村知事さんも、

△長期展望に立った造林補助制度の確立について▽

羽太 鈴木晴雄

西郷村は広大な民有地がありその十五％の約七〇〇haは有望な植林地ですが、数年前からの外材の輸入、手間賃の値上りなどによって三十年先の採算の見通しが立たなくなっています。農業経営安定のために新たな観点から長期展望に立つて補助制度の新設をお願いしたい。

【答】 六十年の末までに県内の民有林の約六十％に当る三千三百haに造林する計画で努力しています。

西郷村に対しては今までに十七・四ha、二百三十五万円を補助していますが、今後この調子で補助して行きたい。

△国立少年自然の家の利用について▽

川谷 萩原時子

甲子地区に全国で二番目の国立少年自然の家が建設中ですが、知事さん、その他の関係者の方々に敬意を表します。都会に比べ自然は恵まれますが、設備については不足しているもので地元で優先的に利用出来ま

すよう知事さんのご配慮をお願いいたします。

【答】 国立梯警青年の家を見てわかるように、一番利用しているのは福島県です。地元の子供の教育、みなさんの社会教育のためにきやすく利用でき、地域の

メリットがあるような運営を計って行きたいと思ひます。

△小規模校（複式学校）への県負担教員の配置について▽

甲子 有賀 三

川谷小学校は児童数の減少によって昭和五十年から全学年複式学級になり種々の問題が生じています。複式教育による不均衡を是正する上から、せめて一名の県負担教員の増配を

知事さんをお願いしたい。

【答】 何が一番大切な、何を先にやらなければならぬかという点、子供をしっかりと育てることです。福島県は面積が広い割には人口が少なくため過疎地が多く、従って複式学級もたくさんあります。これを一度に解決するのは実際には出来ないで、複式学級などにならないように徐々に解決していききたい。

△白河駅から通う高校生の自転車小屋について▽

羽太 近藤 進

私は県南高校の保護委員であります。白河駅から矢吹、須賀川、郡山方向に通学する生徒は現在、自転車、バイクを国鉄、警察に無断で置いておく形ですが自転車などが無くなるケースが一度や二度でないの

で早急に自転車置場を実現していただきたい。

【答】 トタン屋根の簡単なものならば村とPTAで考えれば出来ると思うのです

が。町村長さんとよく相談して解決して行きたいと思ひます。

△水資源の確保について▽

黒川 鈴木良策

西白河地方は阿武隈川の源流にありながら、良質な生活用水、工業用水に恵まれず、地下水、伏流水を利用しています。黒川ダムを開発により水資源の確保を計るべきであると思うが県の考えをお聞きしたい。

【答】 福島、栃木、茨城三県知事会議で黒川にダムを作ろうということになっていま

す。ダムを作ると五百五十万tの水がたまり、一日十六億かかり、非常に高い水ということになります。今後は調査が終了していますので、この問題をいつ具

体化するかが、よく相談して実施したいと考えています。

△太陽の国の排水処理について▽

上野原 十文字たつゑ

県が本村に建設中の太陽の国は堀川の川上流にあり、堀川はかんがい用水、一部生活用水として使用していますが、終末処理が完備していないため汚染が進んでいますが、県の整備計画はどうなっていますか。

【答】 個々の施設については処理しているのですが、明年からは一千人を対象に三億五千万円の費用で終末処理を行う方針です。後の

分については分割して作る方針ですので、しばらくがまんして下さい。

△国保税の村の負担について▽

折口 菊地源一

寝たきり老人は六十五歳以上は医療費が無料になり老人医療費は国保の税金でまかなわれます。これに関連し、太陽の国に入所する人は村に籍をおくので村の国保負担にならないか。

【答】 これは心配しなくてもよいのです。その点は安心して下さい。

△高齢年金の年四回支給について▽

原中 青柳旧妻

私は共済年金を三カ月に一回支給されていますが、高齢年金についても、特に寝たきり老人などが非常に待ち遠しく思っていますので、年四回支給出来るようにしていただきたい。

【答】 私もこのことについては同感です。寝たきり老人については県の方でも検討中です。

△国道二八九号線の早期着工と歩道設置について▽

折口原 山本亀次郎

国道二八九号線は整備計画によって部分的に着工しているが新幹線の開通と歩調を合わせて甲子峠の開通を実現出来るかどうか。

（三頁の六段に続く）

福島県の人口は何人でしょうか？

昭和50年10月1日

人口クイズ



誰でも応募出来ます。
 官製ハガキに限り、1枚1回答。最大10枚まで。
 福島県統計調査課 〒100 福島市杉妻町 1-1-1
 昭和50年9月30日 当日消印有効
 昭和50年12月 国が発する人口概数による(入賞者に直接通知する)
 第1位1名(的中率又は最も近いもの) 3万円
 第2位2名(第1位の次に近いもの) 1万円
 第3位5名(第2位の次に近いもの) 2千円
 ・同順位が多数の場合は抽選によります。
 ・同一人が重複して入賞した場合は上位の賞1つになります。
 昭和45年 2,051,137人 (国勢調査) 昭和46年 1,940,299人 (国勢調査による)
 昭和47年 1,838,768人 (国勢調査による)
 昭和48年 1,983,754人 (国勢調査) 昭和49年 1,943,060人 (国勢調査による)
 昭和49年 1,962,879人 (国勢調査による)
 昭和50年 ?

第12回 国勢調査

福島県・福島県統計協会



みなさんのご協力を！

10月1日は国勢調査

十月一日には、全国いっせいに国勢調査が行なわれます。このため九月三十日まで、全国の各家庭に調査員が調査票の記入をお願いいたします。

▽誤って記入したときは、消しゴムでよく消してください。

×

九月三十日までに、次の国勢調査員が皆さんの自宅に調査票の記入をお願いにあがりますので、お宅にふだん住んでいる方について、もれなく記入してくださいようお願いします。

記入していただいたことを他にももらしたりすることは決してありませんので、皆さんのご協力をお願いします。

調査員名

▽小田倉地区

真船 忠司 金沢 昭行

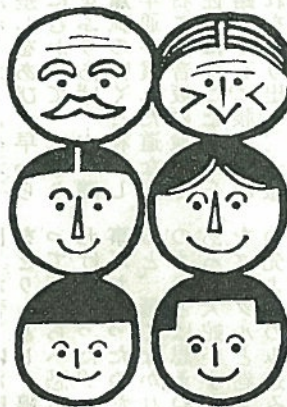
調査票は、気軽に記入していただいていたのですが、なにも直接機械にかかれず、その取扱

▽答をマークで記入するところは、わく()からみ出さないよう記入してください。

▽必す黒鉛筆で記入してください。

今回の国勢調査の調査票は、正確な統計を一日も早く作成して行政に役立てるため、各家庭で記入していただいた調査票は市町村・都道府県を通じて総理府統計局に集められ、「光学式読取装置」というマークを読み取る機械にかけて集計します。

昭和50年10月1日



国勢調査

鈴木 真船	森 渡辺	添田 鶴生	鶴生 辰夫	正木 辰夫	須藤 忠夫	鈴木 秀夫	熊倉 金蔵	鈴木 金蔵	長坂 兼治	和知 兼治	柏野 忠雄	猪越 吉弘	和知 忠雄	鈴木 忠雄	羽太 敏捷	田辺 幸	米 幸	小野崎 敏一	岩鍋 正雄	菊川 三郎	鶴見 三郎	佐藤 義清	小野 義清	木野 義清	佐藤 義清	橋本 義清
実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功	実功
佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清	佐藤 久清

調査票の記入例

○ 良いマークの例

記入例 (標準のマーク)

○ 悪いマークの例

2ミリメートル(マークわくの横線の半分の長さ)以上わくからはみ出している場合

インキ、ボールペンなどで記入されている場合

細い又は短い 横線以外のマーク

また歩道の設置、特に川谷地区について知事さんのお考えをお聞きしたい。

【答】新幹線は大体五十五年頃開通する見通しですがそれまでには出来るだけ早く開通させたいと考えています。歩道については地元交通安全対策協議会と相談し、特に学校のある周辺については造らなければならぬと考えています。

△堀川及び谷津田の河川改修の促進方について▽

上新田 宮城 弥

上流の太陽の国地区の河川改修が実施されたため、下流は流速を増し、洪水の被害のおそれがあります。また両河川の下の市街化により改修が困難になると思われるが、何年頃までになるか、見通しをお聞きしたい。

【答】人家の密集地帯については出来るだけ早く実施したいが何分にも用地について皆さんのご協力をお願いしたい。完成までには十年以上かかると思います。

なお時間の関係で文書で質問した黒川の鈴木良策さんの、黒川護岸工事について、長坂の鈴木平作さんの、長坂の大規模開発についてはまだ解答がありませんので、もうしばらくお待ち下さい。

文化財だより

・文化財について

『文化財』と一言書くものなら、皆さんは「ああ、昔のことか」と思われるでしょう。まして、文化財行政が「○○時代の遺跡の発掘」であるとか「○○時代の民具」などというものを今まであつかってきたために、『文化財』とは古いものを研究していくことだ。」と考えられてもいたしかたない状態にありました。

また、『文化財』というものは、その地方特有のものを、調査・保護する仕事だ。」と言いますが、それも部分的には正しいものの決して、その本質を言い尽したものではありません。確かに、地方地方にその特徴はあるものの、それは部分的な変化(バリエーション)を示すものであって、決して全く特異なものが単独であることを示すものではない。文化財の調査は、いかにしてある地方にその特性を示す行事(たとえば)が残ったのか、どのような母胎にその行事が生まれ、継続してきたのか……というところを調査することにその

の目的があるわけです。

今まで私たちの学んできた歴史は、私たちの郷土がどのようにして現在に至ったかは学んできたものの、私たちの祖先が、毎日どのようにに生活してきたのかにかんしてそれを改善してきたのかについてはあまり触れてはきませんでした。文化財とは、この一番大切な歴史を作り、そして一番底辺で暮らしてきた人々の歴史を考えることなのです。

私たちは、こうした立場より改めて、人間の作った歴史を、新しい眼で見直し新しい感覚で触知しうる機会を持ちたいと思います。



(米・蓮華寺裏の供養塔)

西郷村の民話(1)

報 恩 (1)

鶴生 菊地亀吉

(一) 甲子の御宿までの道中

佐吉の家は先祖代々家伝の妙薬初徳院の製造元でした。春になり那須の御山の雪が溶ける五月の頃より、毎年、甲子の峠を越えて遠く南会津名倉沢の部落より、または塔のへづり下郷村より田島、湯の上方面から会津若松まで、幾日も幾日もかかって家伝初徳院を行商して歩くのでした。

春の日ざしの暖かい五月の中旬の日長、背に初徳院の薬箱を背負い、草鞋はきの軽いいでたちの佐吉は、女房おみねの心のこもったべんとうを腰に、朝の明け頃、上々の天気恵まれて、ニコリと女房おみねに微笑み「じゃあ、行ってくるよ、おみね。」と、窓女房を残し、例年の通り行商に出かけた。

我が家を後に、関の白河を通り、甲子街道を真直ぐ折口原のあたりをすぎるのだった。お百姓はもうそろそろ田うないの仕度にとりかかりはじめ、山や畑には鶯やひばりが春の訪れを告げ、田のあぜには「ふきの

とうり」がポツカリとやわらかな日差しをあび、早わらびは空にむかっ、にぎりこぶしをふりあげ、山の曠野には薫風の吹く日和でした。長年通い慣れた道ながら、流石に観音坂の険しさは余程佐吉にはこたえたらしく、路傍の石に腰をかけた煙草入れを取り出し、一服するのでした。

春の日差しは暑く、喘ぎ喘ぎ、汗ばんだわきやえりもとを払いながら、はや川谷まで登りつめ、銅粉坂までさしかかった佐吉は、のどにかわきを覚えはじめた時、チョロ、チョロと流れるせせらぎの音にふと気付いた。「やれやれ、此所まで来ればあとはもう少し。ひと休みしてもよいわい。」と背の薬箱を「ヨイショ」とおろし、道端の草むらでしばしの休息をとることにした。まだ昼には間がありましたが、空腹をおぼえた佐吉は女房おみねのこしらえてくれた握飯をひとつ頬張り、せせらぎの水をのむと、腹ばいした水端に口をつくようとしたせつな、「ビュウ、ビュウ」「ギイ

ギイ」という異様な音が、何処からともなく聞えてくるのでした。ギョッとした佐吉はしばらく呆然としてしまいました。再び鳴き

出した苦しい鳴き声に我をとりもどし、鳴き声を追って草むらへ恐る恐るふみわけていった。いったい何事がおこったのだらうと見ると、驚くなかれ、この世のものとは思えぬ一丈余もある大蛇が小さな殿様蛙をグルグルと巻きつけ、足の先よりのみ込み、尻から血を吸いとっている、それは恐ろしい風景ではありま



なか。余りにも無残な情景を眼のあたりにした佐吉は、今にも氣を失なうそうになりましたが、やっと思いで氣をとりな

おし、心のやさしい佐吉は「この憐れな蛙をなんとか助けてやりたいものだ。」とは思いはしたものの一丈余もある大蛇を如何ように追払う術もなく、ただオロオロと見ているばかりでした。(つづく)

◆お願い

このページは皆さんに開放されたページです。皆さんの思い出、行事等のお話の投稿を、お願いいたします。

西郷村文化財
保護委員会

・ 第八回「残暑」
・ 仰峰の句評きびしき残暑かな 真船 龍雄
・ 秋暑し、イモチ子防に汗光る 高木源次郎
・ 秋風の工場へ来て汚れおり 坂本 桃晴
・ 第三回「野遊び」
・ 野遊びの背なの弁当あたかし 遠藤 八郎
・ 摘草に凶鑑のはこり払いけり 大沢 清二
・ 野遊びの人が道問う牛車かな 須藤千代子

郷土史コーナー

西郷村史 (5)

第5回

原始社会と女性

原始と呼ばれる時代は、人間が人間と見なされる生活を始めてから現代にいたるまで最も長い歴史を持つ。その最も長い期間を占める人間の足跡は、今なお不思議のベールに包まれている。

母なる大地に人間が生活を始めた昔、社会は女性を中心として成立したのではないかとされる。その頃女性には神であり、あらゆる人の創造物の主であったと言われる。仮説にすぎないのだが、縄文土器は、直接狩猟生活に参与しなかった女性が、その住居で泥をこね作ったものでないだろうかと言われる。その美しさは、前号にしるした通りで

あるが、その創意・美は、現代人の持たないものである。それらの美は現代人の創造しえないものである。それらが仮説の通り女性の手になるものとするれば、それはまさに感嘆に価する。幾千年・幾万年にも及ぶ人間文化の創成期は、ゆるやかな進展のもとにこうした数知れぬ工夫の中におどろくべき創意と美と、そして社会生活を創造しはじめていたのである。

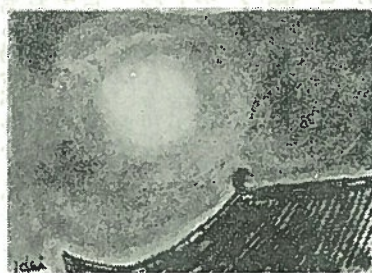
また特徴的なものとして土偶がある。土偶はその多くが乳房を持つことから、抽象化された女性をかたどったものではないかといわれる。それは当時の信仰・社会状況を表徴する。

(つづく)



[追原茅窪出土・石 棒]

浙江の春は訪れが早いのか四月半ばになると、山野は一斉に春である。柴のような樹ばかりの雑木山は銀粉をまぶしたような萌黄色になって柔らかくふくらみ野は枯れた色の中にも淡緑が目立ち、大地の息吹きが眠りから覚めるのをひしひしと感じられる。この春風騒動の季節、異国の地で軍服に身を固めながらも、夜の月影を仰いだりすると仲麻呂の郷愁に似た思いが胸に迫ることもあった。



警備隊兵はほとんどが広島出身で会話に方言があり「何々ちゃけえの」(何々だからね)に準じた言葉が多い。始めのうちは、途惑ったが、親愛の度が深い集団生活であったせいか、おのずから慣れるのも早かった。

指揮班に、マラリアで突然苦痛に陥る兵長が一人いた。彼の血液内に潜んでいた

マラリア原虫により最初の発作から二、三日たつと激しい悪寒を伴う高熱にうなされ、全身の震えが止まらない哀れな症状になる。普通の寝具で臥しているところへ更に布団や毛布を掛け、春の光で明るい班内なのに冬にも思い及ばないような寝具に被われている。兵長は弱りかけた震え声で「頭見えんようにしてくれんかのう」つづいて、被われている布団の中から私へ要求の音がする。厚く掛けられた布団の上へ四つん這いになって、私の体重を加えて

回想録

陸軍衛生兵の思い出

(5)

佐藤 兵 治

かのように……。

警備隊の衛生管理は医務室(軽い傷病兵を入室兵として看護する)内務班付き(簡単な治療と疾病の予防)に分担され、医務室は衛生兵長と衛生一等兵班付きは衛生上等兵と私でおのおの二人編成になっていた。

連絡のため私は医務室を訪れることがたびたびあった。ある時のこと兵長の室で話していると、兵長は急に何か思いついたように席をたち、陰の方から軍用食器へ盛った白米飯を持ってきた。

重すべてをかけることは無理と思つて、左右の肘と膝で自分の体を支えるように

「うめいからのう、喰うてみい」

といわれても、何やら見当がつかない混ぜ飯のようで豆腐粕のような物が多く目につく。私が手をだし兼ねてもじもじしていると、「鯉の卵ちゃけえ」と笑いながら私の顔をのぞく。

「いただきます」事務机の上へ箸まで添えて置いてくれたから、遠慮なく食べ始めた。炒め飯に似た素晴らしくうまい味であった。

兵長が常に執務している個室内だから他への気遣いがない。

兵長は食事私の私に、「鯉の話極秘ちゃけえの」と前おきして、入手経過を説明する。警備隊兵のだから手榴弾を使って密漁した獲物で、三尺ぐらいの巨大な鯉を一びき密漁者からもらったらしい。

(つづく)

村史編さん室

よりお願い

ただ今村史編さん室では村史に掲載する昔の写真をお持ちの人がございまして、誠にお願いいたします。

